

142 明治24年2月27日 菊池みち宛

二四、二、二七塔の沢鈴木

昨日烟草とオートミール入用之旨申達候処猶又左之品々□しく候間何れも目方之掛る物ニ候得ハ寧ろ小き柳行李ニ詰合セ荷物として鉄道へ御預被成国府沢にて馬車之奴ニ取て来て貰様可被成候西洋本 し分り難く候ハ、横田ニ可被承合同人ハ少し眼か利可申候

一 アポット法律字書

二冊

Abbot Law Dictionary
黄表紙の本にて紅革の処ニ上の如く金字之ありと覚ふ下ニI IIの印ありて二冊拵となる

法令全書中

二 民法、商法、訴訟法、のある分

熱海を筆筒ニ入て戻したる分也

三 心学道話

氣車(カキ)ハ何時もの通り横浜にて乗替無之新橋出之車にてつふと国府津へ着之事ニ候金を多く持てハ不用心ニ候間□道の旅費と御土産代位御持参可被成候帰りの旅費ハ此方ハ可差出候とふせ只今持合之金高にてハ爰許の払届申間敷何れ追て為替にて御送金を受ねハ不成候

○、九八 国府沢迄中等

、二五 湯本迄上等今時ハ中等も減多ニ出不申候得候念
の為高積り

此外ニ帰り之土産代兼不時之入用ニ宛幾位か御持参可被成候新
橋国府沢間ハ三時間国府沢湯本間ハ先一時間都合四時間掛候得
は其勘定して乗車之時算御取極可被成候只今受取候河上^ら之手
紙□□し明日繰合出来れハ当地へ話ニ来るとの事也

るち殿

武夫